

朝日がん大賞・日本対がん協会賞 受賞 祝賀会
 松本みずたまカフェ 齋藤智恵美

11月3日(土)文化の日に名古屋市内で「朝日がん大賞・日本対がん協会賞」受賞祝賀会に参加しました。お祝いに訪れた方々の温かい笑顔、再会を喜ぶ声に包まれていた会場は、主催者である「がん哲学外来シャチホコ記念カフェ」の彦田かな子さんを始めとする皆さまの活動を象徴するようでした。

がん体験者のフラダンスチーム“プルメリア”の舞いから始まり、国立がんセンター名誉総長の堀田先生の開会挨拶、樋野先生の受賞講演、「どあらっこ」メンバーの挨拶、小学生の「さやかちゃんの研究発表～お母さんのがん～」の発表と、内容は盛りたくさんで、格調の高さとアットホームなおもてなしを感じられる祝賀会でした。樋野先生がご講演の中で、どあらっこのメンバーの活躍を「それいけ！アンパンマン」の「ぼくらはヒーロー」、彦田かな子さんの活躍を、名前の「かな」という文字から「夢をかなえてドラえもん」と、国民的アニメの歌で表現され、会場に笑いが溢れました。“100円ショップで材料を調達し、夜なべをして作った”という“手作りのくすだま”には、「小さなことにも愛を込める」というがん哲学のエッセンスがたくさん詰まっています、本当に感動しました。「がんと共にその人らしく生きる」力強さをたくさんの方から感じさせて頂く機会となりました。



千葉県の がんカフェ協力体制の紹介

「野田・春日部」がん哲学外来
 &メディカルカフェ 高野みどり

私が、病気療養中の主人の為に千葉県に越してきた2015年2月には、樋野先生がお一人で面談のみを国立がんセンターで開催している他に、がん哲学外来カフェは皆無に等しい状況でした。埼玉県には既に10ヶ所ほどのカフェが開かれていました。そこで、野田の地に2016年5月に樋野興夫先生をお迎えして開所講演会を行いました。それから二年間を経過する中で、現在では「柏・ながれやま・八千代・野田・市川・松戸」の六か所となりました。それぞれのカフェが積極的に地域に密着した活動をされています。そして、カフェ開催時には、各カフェが応援に駆け付けます。そのような中で、カフェの在り方やコーディネーターの関わりの困難事例などが話題になり、力を得て次のカフェ開催に向かいます。

12月24日(祭日)には、樋野先生が理事長を務められる「日本地域医療連携システム学会」が開催されます。花一輪カフェ(八千代)代表の上田さんご夫妻が学会長と運営にあたり、総合司会は流山カフェの春日井いつ子さんが務めます。そして、シンポジウム「その人らしい暮らしを地域で支える」では、私(高野)が「がん哲学外来の活動」を紹介させていただきます。

野田市では、12月1日(土)に社協主催の「ふれあいハート祭り」に初めてブースを開きます。樋野先生のミニ講演会とハンドマッサージ(花一輪カフェスタッフ・柳田さん)を行い、地域活動に参加を始めます。皆さまの応援をお願いいたします。

高野囀昭師 追悼記念シンポジウム

がん哲学外来メディカルカフェ in 春日部

～ 生きる力を引き出す寄り添い方 ～

第1部 講演会 “ 笑顔が生まれる接し方とは ”



がんに悩んでいるあなたへ、
 その家族・友人へ、そして共に歩む人へ!!
 “一人では抱えず、がんと共に生きるために、
 家族とともに歩むために” ことばの処方箋を差し上げます。

講師 H30.9 日本対がん協会朝日大賞受賞 (H30.9.5 朝日新聞朝刊に掲載)
 順天堂大学医学部病理・腫瘍学 / 国際教養学部 教授
 一般社団法人がん哲学外来理事長 樋野 興夫 先生

「このころのアオアシ」 西洋ノコギリ演奏： 木本誠二氏 (日本のこ音クラブ名誉会長)
 京本明子氏 (のこぎり漫才「のんのん」)

第2部 シンポジウム；「がん治療と生活」～病院と在宅をつなぐ～

★在宅医 さえぎさ医院院長 三枝 誠一郎 先生
 ★がん化学療法認定看護師 東京通信病院 南里 栄 氏



特別出演：セラピー犬「ハナちゃん」6年前に骨肉腫の為に左前足を切断
 愛犬から学ぶことが多いと飼い主様



「がん哲学外来」とは、がん患者とその家族らに安心を与える医療者との対話の場所です。「がんであっても笑顔を取り戻し、人生を生きることが出来るように支援したい」と願う、病理・腫瘍学の第一人者である樋野興夫先生によって発足されました。現在、樋野先生を中心として各地で「がん哲学外来」が広められ、大きな反響が起っています。個人面談と並行して「メディカルカフェ」を開催し、おいしい茶菓を囲んで、来た時に背負ってきた荷物をおろして癒ゆるような語りの時を持っています。

とき 2018年10月21日(日) 13:30～16:00

会場 南桜井キリスト教会 <参加費無料> *宗教不問です